

松本市中心市街地の街路空間構造と土地利用に関する研究

平成 29 年 2 月 小林 宏志

要旨

目的

街路の配置や形態が行政のトップダウンで計画されるものであると解しても、その前面に配される用途・建築などの土地利用に係わる個別行為を集合的に見ると、新たな意味を持って特色ある街路空間が出現することもあり、その都市空間の奥に潜む修辭（シンタックス）とも呼べる作法や設えを発見して、それをまちづくりに活かすことが考えられる。本研究では松本市中心市街地活性化基本計画の区域内にある街路空間と土地利用の関係を客観的に明らかにし、城下町としての特徴と魅力を抽出して、これからのまちづくりを考える一助にすることを目的とした。

方法

街路空間の構造を表すため、Space Syntax 理論の解析手法である Axial analysis によって求められる位相幾何学的指標である Integration Value という指標を用いる。対象地域内の「建物の用途」、「建物の階数」、「街路形態」、「駐車場の用途」などこの指標との関係性を読んで、城下町松本の特徴を見つけ出す。

結論

松本市を代表する大規模な商業施設が立地している地区における街路では Integration Value の平均は高く、民芸、工芸、飲食店などたくさんの専門店が今もなお多く残っている中町通りや伊勢町通り地区の街路でも Integration Value の平均が比較的高いことがわかった。松本市中心市街地の街路空間は、近年整備された主要道路と城下町特有の奥性をもった街路が共存し、とくに後者に係る土地利用の特徴が明らかになった。しかし、駐車場は両者の全域にわたって散在しており、城下町として魅力ある土地利用に繋げることがまちづくりの課題である。Axial analysis の結果より、中町通りや伊勢町通りのような歩いて楽しめる地区は、Integration Value が高い空間にすることで歩きやすく、城下町松本の魅力をより伝えやすくなると考えられる。

指導教員 藤居 良夫 准教授